

**(5) 難病・小児慢性特定疾病対策等【一部新規】 1,577億円(1,479億円)**

難病患者等への医療費助成等を実施するとともに、「難病・小慢対策の見直しに関する意見書」等を踏まえ、難病・小児慢性特定疾病対策の一層の推進を図る。

**① 難病対策の推進 1,271億円(1,173億円)**

**ア 医療費助成の実施 1,250億円(1,154億円)**

難病患者に対する医療費助成に必要な経費を確保し、患者の医療費の負担軽減を図る

**イ 難病患者の社会参加と難病に対する国民の理解の促進のための施策の充実**

**12億円(12億円)**

難病相談支援センターを中心とした地域の様々な支援機関と連携した相談支援体制の構築などにより、難病患者の長期療養生活上の悩みや不安を和らげ、就労支援を推進するため、難病相談支援センターへの専門職の配置等を充実するとともに、難病についての理解を深める取組を推進し、難病患者が社会参加しやすい環境の整備を図る。

**ウ 難病の医療提供体制の構築【一部新規】(一部再掲) 9.4億円(6.9億円)**

都道府県における難病の医療の拠点となる難病診療連携拠点病院を中心とした連携体制の構築等に対する支援を行うとともに、全ゲノム解析等実行計画に基づき、ゲノム情報を用いた適切な診断及び解析結果の患者還元を行う体制構築に向けた運用の実証を行う。

**② 小児慢性特定疾病対策の推進 179億円(179億円)**

慢性的な疾病を抱える児童等に対する医療費助成に必要な経費を確保し、患児家庭の医療費の負担軽減を図るとともに、慢性的な疾病を抱える児童等の自立を支援するため、療養生活に係る相談や地域の関係者が一体となって自立支援を行うための事業の立ち上げ支援等を行う。

また、小児期から成人期への円滑な移行期医療を推進するため、実態調査の実施及び都道府県における体制の構築に対する支援等を行う。

**③ 難病・小児慢性特定疾病に関する調査・研究などの推進【一部新規】**

**113億円(113億円)**

難病・小児慢性特定疾病に関する研究を総合的・戦略的に実施するため、全国規模の指定難病患者・小児慢性特定疾病児童等データベースの充実を図り、難病患者等の情報の円滑な収集を進めるとともに、この情報を活用するなどして、疫学調査、病態解明、治療法の開発(遺伝子治療、再生医療技術等)等に関する研究を行う。

**④ 慢性疼痛対策の推進 2.6億円(2.6億円)**

痛みセンターを中心に、慢性の痛みに関する診療ノウハウの普及や人材の育成等、慢性疼痛診療モデルの普及に向けた事業等を実施する。

**⑤ リウマチ・アレルギー対策の推進 9.6億円(9.5億円)**

リウマチ等対策委員会報告書を踏まえ、患者が早期に適切な治療を受けられる体制を構築するため、かかりつけ医と専門医の連携を強化するための支援を行う等、リウマチ対策を推進する。

アレルギー疾患の医療提供体制を整備するため、アレルギー疾患医療に係る中心拠点病院で行う研修や診断支援等を強化するとともに、免疫アレルギー疾患研究10か年戦略に基づき、疾患の本態解明等に関する研究を進め、アレルギー疾患対策を推進する。

**⑥ 慢性腎臓病（CKD）対策の推進 2.0億円(1.9億円)**

慢性腎臓病の重症化を予防し、新規透析導入患者の抑制を図るため、診療連携体制の構築等に関する都道府県等の取組に対する支援を引き続き実施するとともに、慢性腎臓病の予防等に関する研究を強化する。

**(6) 移植医療対策 35億円(34億円)**

**① 造血幹細胞移植対策の推進 2.4億円(2.4億円)**

移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進を図るため、若年層の骨髄等ドナー登録者や臍帯血の確保、コーディネート期間短縮に向けた取組や造血幹細胞移植後の患者のフォローアップ体制の構築を引き続き推進するとともに、造血幹細胞移植に必要な基盤（バンク）が安定的に運営できるよう支援を行う。

**② 臓器移植対策の推進【一部新規】 8.8億円(8.3億円)**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により臓器提供数が減少した状況を踏まえ、脳死下及び心停止後の臓器提供が円滑に行われるよう、臓器提供施設の体制整備や連携強化等を通じた地域における臓器提供体制の構築、移植検査の基盤強化、ドナー家族支援等のあっせん体制の充実等を推進するとともに、臓器提供に関する意思表示を促進するための普及啓発の取組を行う。